



森永乳業
サステナビリティレポート
2018



これからの
100年に
向けて

新しい100年を 描きはじめました

森永乳業は2017年、創業100周年を迎えました。
積み上げてきた長い歴史の上に立ち、未来を見据えながら、
社員一丸となって新しい企業理念を策定し、決意を新たにしました。
そして今、また新しい100年がはじまっています。
2018年は、その第一歩。この先、私たちがどこへ向かうのか。
何を描き、何を創り出すことができるのか。
広く社会に、世界に目を向け、課題を見出し、
ステークホルダーのみなさまと対話をしながら、
一つひとつ真摯に取り組んでいきます。
100年先も、社会に求められる企業をめざして。





Contents

- | | | | |
|----|---------------|----|---------------------|
| 04 | コーポレートミッション | 31 | 重要取組課題 供給 |
| 05 | トップメッセージ | 35 | 重要取組課題 次世代育成 |
| 07 | これからの100年のために | 39 | 重要取組課題 人財育成 |
| 15 | 重要取組課題 健康・栄養 | 43 | 重要取組課題 コーポレート・ガバナンス |
| 21 | 重要取組課題 環境 | 45 | 第三者意見 |
| 27 | 重要取組課題 人権 | | |



コーポレートミッション

コーポレートスローガン

かがやく“笑顔”のために

経営理念

乳で培った技術を活かし
私たちならではの商品をお届けすることで
健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる

行動指針

私たちの8つの問いかけ

1. お客様に寄り添い 感動を共有できていますか
2. 感謝の気持ちを持っていますか 伝えていますか
3. 全ての品質に自信が持てますか
4. 本物の安全・安心を追い続けていますか
5. 常に挑戦し続けていますか
6. 「チーム森永」の輪 築いていますか
7. 今 自分も仲間も生き活きしていますか
8. 夢を語り合い 未来へ一歩踏み出していますか

コーポレートスローガンに込めた想い

私たち森永乳業グループがお客様にお届けしたい価値である「健康と幸せ」の結果として、社会に提供していきたいものを“笑顔”という言葉で表現しました。

「日々の生活や、家族や仲間との団らんを通じて、内面から自然とあふれてくる“笑顔”を生み出していきたい」

そんな私たちの想いをかがやく“笑顔”のためにという言葉に込めました。

経営理念に込めた想い

お客様のかがやく“笑顔”のために、私たちは創業から培ってきた力を活かし、商品としての「乳」だけにこだわらず、独自性のある様々な商品やサービスをお届けしてまいります。

それにより、心とからだの両面からお客様の健康を支え、幸せな生活に貢献することで、笑顔あふれる豊かな社会をつくります。

行動指針の役割

コーポレートスローガンと経営理念を実現するために、森永乳業グループに所属する一人ひとりが行動において心がけるべき指針を策定しました。



人々の健康に貢献する企業として 持続的に成長を続けていきたい

代表取締役社長

宮原 道夫

企業理念を見失うことなく 強い気持ちで業務推進を

2017年、森永乳業は100周年を迎えました。我が社の歴史の大きな節目を乗り越え、ほっとしています。すべての社員をはじめ、ステークホルダーのみなさまには深く感謝申し上げます。

2018年は創業101年目、新たな100年のはじまりの年です。社会環境の変化などを踏まえると、まず最初の20年、30年が本当の意味で激動であろうと思っています。その中でも私たちは、新たに策定し

た企業理念を常に見失わずに、しっかりと強い気持ちを持って業務を推進していかなければなりません。

グローバルな視野を持ち 世界共通の課題を意識した企業活動を

今、「世界共通の課題には世界共通のビジョンを」という認識が広がっています。その根底には、この時代の不安定さ、不透明さがあるのではないのでしょうか。たとえば経済格差、難民問題、気候変動など、数々の課題が噴出しています。国連の提唱する「SDGs」(→ P14)は、その反省の上に立ち「誰一人

として取り残さない」という理念を掲げています。当社も「SDGs」の目標達成にどのように貢献していけるのか、議論を重ねています。

2018年4月には、森永乳業として「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。そこに掲げられた「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則は、私たちの事業にとっても大きな課題であり、サプライチェーン全体に視野を広げてみれば、世界のさまざまな問題とつながっていることがわかります。

「SDGs」も「国連グローバル・コンパクト」も、企業としての取り組みも大切ですが、これだけグローバルな時代ですから、国、地域、業界、あるいは他企業との共同作業というような、もう少し大きな枠組みで取り組むべきだろうと思います。

多くの社員が課題を共有しながら 重要取組課題を策定

森永乳業では、サステナブルな社会をめざして、今取り組むべき、7つの重要取組課題を策定しました（→ P9）。策定にあたっては、さまざまな部署の多くの社員たちが協議を重ね、課題を共有する場を持たせたことが、まず大きな成果だと思っています。こうした活動が、企業の活性化にもつながることを期待しています。

重要取組課題については、このサステナビリティレポートで詳細にご紹介しています。さらに取り組みに磨きをかけ、より有効なものにしていくために、今後もステークホルダーのみなさまの声に耳を傾け、反映させていくことが重要だと考えています。

ESG（環境、社会、ガバナンス）への 取り組みを推進

2020年3月期を最終年度とする中期経営計画は、2018年が4年目です。これからはますます、企業活動は業績だけではなく、ESG、つまり非財務情報も含めて評価される時代になるはずです。ステークホルダーに真に満足していただき、サステナブルな社会をつくるためにも、ESG（Environment：環境 Social：社会 Governance：ガバナンス）の取り組みが大切になるでしょう。今後は、重要取組課題を中心にESGを推進していきます。また、ESG情報の開示については、「GRIガイドライン」に沿った対応が必要と考え、準備をしています。

人々の“笑顔”をふやす 仕事に携わることをよろこびに

森永乳業は、乳を基本とし、いつまでも人々の健康に貢献する企業でありたいと心から願っています。健康に貢献し、社会を豊かにする。そして、かがやく“笑顔”をふやしていきたい。「国連グローバル・コンパクト」への署名も、重要取組課題の策定も、それを実現するためのプロセスです。私たちが自分たちの課題の一つひとつ解決していくことが、世界の課題解決につながり、ひいては持続的な社会を実現することを信じて、力を合わせて一歩一歩進んでいきます。

中期経営計画における基本方針 (2015年4月～2020年3月)

1. 成長に向けた事業ドメインの再構築
2. 資産効率の改善および合理化の推進
3. 経営基盤の強化
4. 社会への貢献

成長戦略における重点施策

	目標（億円）	
	売上高	営業利益
1. 機能性・食品素材事業の強化（B to B事業）	1,160	100
2. グローバル化の推進（国際事業）	380	20
3. 健康・栄養事業の育成	520	25
4. 既存事業の収益性の改善（B to C事業）	3,380	80

未来を見据え、 もうはじめていること。 続けていくこと。

コーポレートスローガンをはじめとする理念体系の一新、という目標を掲げ「夢共創プロジェクト」をスタートしたのは、2016年1月。創業100周年を迎える1年8ヶ月前でした。

並行して、社長を委員長とするCSR委員会を発足させ、企業活動すべてがCSR活動という視点で、あらためて私たちと社会との関係を見つめ直しました。

2017年4月に、新理念体系を発表。これからの課題は、新しい企業理念を社員一人ひとりが“自分ごと”として捉え自主的に行動すること、企業として社会の要請に対する課題に対応していくこと、そして、森永乳業らしい社会貢献活動を展開していくこと。

これからも、森永乳業は、すべての企業活動をCSR活動と捉えて、「かがやく“笑顔”」を実現していきます。





2018年4月
**「国連グローバル・コンパクト」(※)
 署名**

森永乳業は、国連が掲げる「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」に関わる10の原則に賛同し、国連グローバル・コンパクトに署名しました。

2017年4月
新理念体系発表

「夢共創プロジェクト」から生まれた、新しいコーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」を2017年4月1日に発表。加えて、経営理念、行動指針を刷新しました。(→P4)

2016年1月～
夢共創プロジェクト

創業100周年を前にして、コーポレートスローガン、経営理念、行動指針を含む理念体系を策定するために、「夢共創プロジェクト」をスタート。「私たちはこれからどんな会社を築いていきたいのだろうか?」という全社員アンケートをもとに議論を重ね、有志の社員が参加したフォーラムを2日間にわたって開催しました。

2018

2017

100周年!

2016

2018年2～5月
重要取組課題策定

2017年のSDGs勉強会を発展させ、全4回のワークショップを行い、森永乳業が今取り組むべき7つの重要取組課題を策定しました。(→P9)

2017年5月
SDGs 勉強会

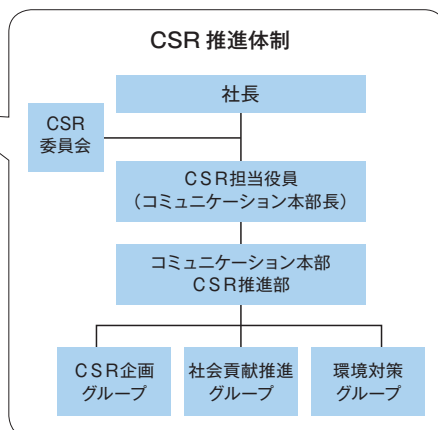
さまざまな部署・役職の社員が参加し、「SDGs勉強会」を開催。外部から専門家を講師に招き、SDGsと自社の企業活動との関わりについて、サプライチェーン全体を視野に検証しました。

2016年6月～
CSR 推進部スタート

それまで広報部内にあったCSR室を独立させ、新たに「CSR推進部」が発足。理念浸透活動、環境対策、社会貢献の推進、ESG情報の発信などを中心に、社内の関係部署と連携しながらCSR活動を行っています。

2016年7月～
CSR 委員会発足

社長を委員長とするCSR委員会が発足。CSR推進部が事務局を務め、半年に1度委員会を開催。「CSRは経営そのもの」と捉え、全社的なCSR活動の基盤構築に着手しました。



※国連グローバル・コンパクト

各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み。これに署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わる10の原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもと、その実現に向けて努力を継続する。世界約160カ国で1万3000を超える団体(そのうち企業が約9,800)が署名している。(2018年5月時点)

7つの重要取組課題を策定しました

「かがやく“笑顔”のために」

このコーポレートスローガンに基づき、

森永乳業は7つの重要取組課題を策定しました。

次の100年に向けて、サステナブルな社会をつくるため、

そして人々の健康に貢献する企業でありつづけるための指針となります。

健康・栄養

P15



「かがやく“笑顔”」を実現する機能性と嗜好性を兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

- 「栄養価の高い商品」「嗜好性の高い商品」に対する社会のニーズは高く、また、中長期的には高齢社会が加速することは避けられません。森永乳業独自の研究開発力で、心身ともに健康な社会生活の実現に貢献することをめざします。
- 人口減少・高齢化が進む中、商品力だけでなくライフスタイルを変革する技術やサービスの創造・提供をめざします。

環境

P21



省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

- 「気候変動」「森林」などに与える影響を考慮した企業活動を実践します。
- 限りある資源を有効に活用するためにも、食品ロスの削減に取り組むことを急務とします。

次世代育成

P35



サステナブルな社会づくりに貢献する次世代を育成し、未来をつくります。

- 子どもたちの明るい未来のために、森永乳業は心身の成長やキャリア教育、そして子育てを支援する活動を行っています。

人財育成

P39



「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

- 新入社員から経営層まで幅広く人財を育成することは、企業の持続的な成長につながります。一人ひとりの適性を活かし、能力をのばすことのできる制度構築をめざします。



人権

P27



人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

● 持続可能な社会形成のために、「人」は特に重要な経営資源だと考えています。すべての人の「かがやく“笑顔”」を実現するために、ダイバーシティ(多様性)の推進をはじめ、様々な人権課題を社外関係者とともに協力して取り組んでいきます。



供給

P31



環境・人権に配慮した原材料を調達し、安全・安心を重視した製造を経て、高品質な商品をお届けします。

● 将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう研究所や工場などと協働しながら、配合設計の研究を重ねています。
● 安全は、当社の中でも最も重要な取組項目です。現在も行っている安全への取り組みを、引き続き実施していきます。



コーポレート・ガバナンス

P43



持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組めます。

● ステークホルダーとの対話、積極的な情報開示を通して、適切なコミュニケーションをはかっていきます。
● 経営層からの継続的なメッセージとともに、ルールの整備、従業員の意識の醸成、サプライヤーとの公正な取引など、内部統制の構築に取り組んでいます。

サプライチェーン全体で課題を抽出し、取り組んでいきます

原材料の調達から製造、販売、廃棄に至るまで、食品メーカーの活動は多岐にわたります。

2018年5月、森永乳業はサプライチェーン全体で、7つの重要取組課題（→ P9～10）を策定しました。

課題解決のために当社が行う具体的な取り組みを決め、その中で特に重要だと思われる項目を特定しました。

各部署・部門が連携し、重要取組課題に取り組んでいます。



※1 人間の舌が感じられる限界に近い薄さの五味（甘味、塩味、酸味、苦味、旨味）を判断できる人にもみ与えられる、森永乳業独自の認定資格のこと

※2 アレルギー用ミルク、低体重出生児用ミルクなどのこと
 ※3 安全かつ効率的な殺菌が可能な微酸性電解水のこと

□ =重要な取組項目

健康・栄養

健康と栄養に配慮した商品の研究開発と販売

- ・成長をサポートする育児用食品の研究開発と販売
- ・機能性商品の研究開発と販売
- ・独自素材の研究開発と販売
- ・特殊ミルク(※2)の研究開発と販売



健康・栄養

ライフスタイルを変革させる技術や素材の研究開発

- ・アルツハイマー抑制の可能性がある「ビフィズス菌 A1」の研究
- ・ピュアスター水(※3)の開発



【健康・栄養】 乳などの独自素材を活かした商品の研究開発と販売

【健康・栄養】 嗜好性の高い商品の研究開発と販売

【健康・栄養】 栄養価の高い商品の研究開発と販売

【健康・栄養】 心の健康を高める商品開発と提案

【健康・栄養】 人以外(ペット、家畜)の健康・栄養に向けた研究開発と販売

【人権】 ユニバーサルデザインの採用

環境

食品ロスの削減

- ・賞味期限の見直し
- ・ウェブページを通じての情報発信



【環境】 環境健康情報の生活者への啓蒙

販売

使用・喫食

廃棄

人財育成 社内活性化

- ・能力開発(各種研修など)
- ・夢共創理念フォーラム(※5)開催
- ・生き生きプロジェクト(※6)
- ・キャリア調査(※7)



【人財育成】 職場活性化

【人財育成】 自己啓発支援ツールの充実と活性化

【人財育成】 海外事業展開に必要な人財の育成

【人財育成】 キャリア(中途)採用者に対する当社の理解促進体制の構築

サプライヤーなど取引先との公正な取引、ステークホルダーとの対話、正しい情報発信、適切な資金の確保、適切な原価管理

※4 子どもたちが那須の森林で共同生活を行いながら自然にふれ、自分に向きあう野外教育活動のこと
 ※5 経営理念を実務に落とし込み、自分ごととするための社員参加型のフォーラム

※6 社員が生き生きと働く企業風土を作るための調査・実行・振り返りを行うプロジェクトのこと
 ※7 年に1度、社員が自身のキャリアを振り返り、勤務状況や勤務希望などを会社に伝える調査

かがやく笑顔あふれる
豊かな社会の実現

重要取組課題は これからの100年に向けた第一歩

「かがやく“笑顔”」をめざして 求められる7つの課題を策定

森永乳業は、2017年4月、新コーポレートスローガンを含むグループ理念体系を策定し、発表しました。2018年、次のステップとして行ったのが、重要取組課題の策定です。

重要取組課題は、私たちの大きな目標である「かがやく“笑顔”あふれる豊かな社会の実現」をめざすために特に優先的に取り組むべき項目です。

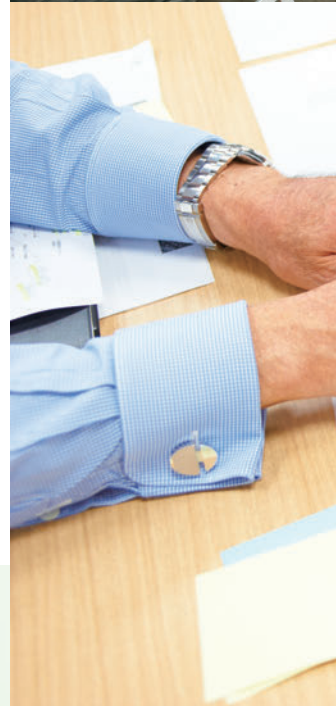
策定にあたっては、計4回にわたるワークショップを開催。さまざまな部署から約30名の社員が参加し、取り組むべき課題を抽出しました。そして協議を重ねて7つの大きな課題を策定し、CSR委員会で承認されました。(→ P9-10)

持続可能な社会への 貢献をめざして

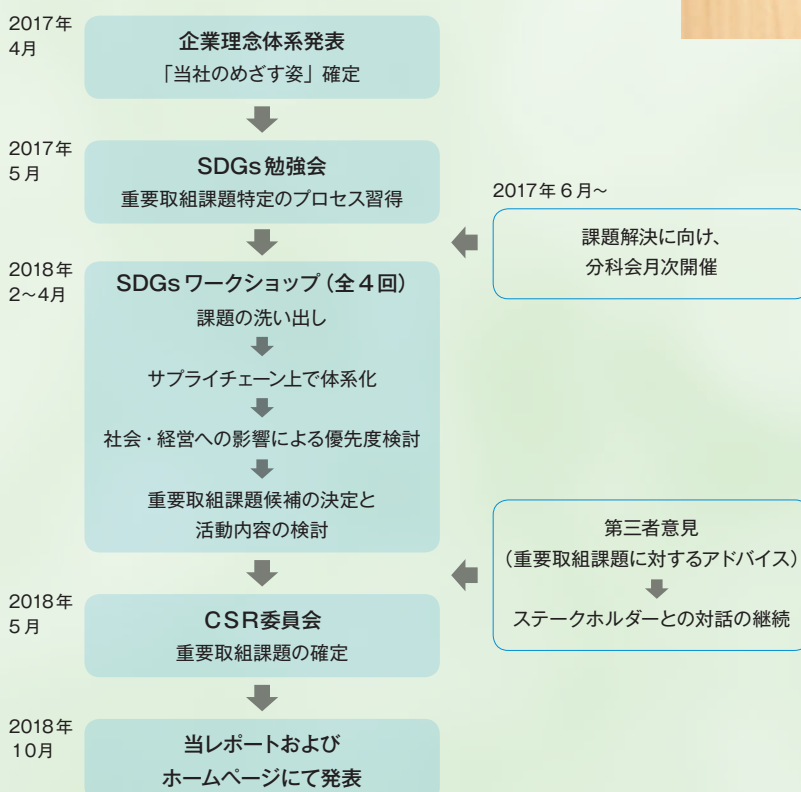
策定にあたっては、行動指針はもちろんのこと、GRIガイドライン、ISO26000、国連が提唱するSDGsコンパスなどを参考にしました。

策定した重要取組課題への取り組みを通じ、森永乳業が企業市民として持続可能な社会の実現に貢献できると、私たちは考えています。

重要取組課題が、SDGsのどの目標と関連するかは、前項(→ P11-12) および各重要取組課題の扉で示しています。



重要取組課題策定の流れ





自然と議論も熱くなるワークショップ風景

今後の課題

ステークホルダーとの対話と KPI の設定

今回策定した重要取組課題は、変化する社会の状況やステークホルダーの声を踏まえ、適宜見直していきます。

2017年のSDGs勉強会でご指導いただいた経済人コー円卓会議日本委員会 石田 寛氏からは、「サプライチェーンを見据えて網羅的に整理し、多くの関連する部門が参加し、まとめたプロセスは評価できる。今後は潜在的リスクの抽出、認識の公表、対策に期待する。国連『ビジネスと人権に関する指導原則』に則って企業活動を行うことを宣言すること、そのためには、人権方針の策定が急務である」とのご意見をいただきました。

より多くのステークホルダーとの対話の場を大切に、時代・社会に即した課題解決に努めていきます。

また、次のステップでは、重要取組課題のKPI(※)を設定し、それぞれの取組項目の進捗状況や達成度を公表することをめざしています。

※ KPI: Key Performance Indicator
活動の進捗状況や達成度を客観的に評価・管理するための数値指標。

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals) は、国連が定めた持続的な開発に関する17の目標と169のターゲット。2015年に採択され、2030年までに達成することをめざしています。「誰一人として取り残さない (Leave no one left behind)」を基本とし、経済格差、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、世界が抱える問題を解決するために、各国政府や NGO だけでなく、民間企業もまた日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。

森永乳業は、このSDGsの達成に寄与することをめざしています。



重要取組課題



健康・栄養



「かがやく“笑顔”」を実現する機能性と嗜好性を兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

栄養とおいしさで健康をサポート

おいしい食は“笑顔”のもとです。そこに、健康を支える大切な要素のひとつである栄養を提供することで、「かがやく“笑顔”」をめざしたい。それが森永乳業の想いです。その実現のために、基礎研究から商品開発、素材応用まで、幅広い視点で日々研究開発を行っています。長年の豊富な研究成果が活かされた森永乳業の多様な商品は、赤ちゃんから高齢者まで人の一生に寄り添い、健康・栄養に寄与しています。

母乳研究の成果と知見を活かして

森永乳業は1921年、育児用調製粉乳「森永ドライミルク」を発売しました。以来、母乳をお手本に理想の調製粉乳の実現をめざして研究を重ねてきました。そして、母乳には赤ちゃんのすこやかな成長に必要なビフィズス菌の増殖因子や免疫に関与するラクトフェリンなど、多様な栄養素や機能性成分が含まれていることがわかってきました。

この母乳研究を通して、ビフィズス菌をはじめとする腸内フローラ(※)が健康に果たす役割に注目し、最先端の解析技術を用い、その全貌解明に挑戦しています。今後も多様な分野で研究を展開し、「乳のちから」で人々の健康を支える可能性を広げていきます。

栄養課題の解決に向けて

現在、世界には栄養に関して2つの大きな課題があります。過剰栄養と低栄養です。前者は肥満や糖尿病など生活習慣病の、後者は筋肉量減少や

免疫低下などの原因となり、いずれも健康寿命や生活の質の低下につながります。また、日本では低出生体重児の出生率が高く、OECD(経済協力開発機構)加盟國中ワースト2位となっています。これには若い女性や妊婦の低栄養が少なからず関わっており、低出生体重児は将来の生活習慣病のリスクを抱えるともいわれています。

森永乳業は、超高齢化・少子化社会の日本で、こうした栄養課題の解決が急務だと考え、高齢者の低栄養・フレイル(※)対策や、次世代を支える若者層などへのさまざまな取り組みに着手しています。1,500g未満の極低出生体重児のお子さんには、ビフィズス菌が優位な腸内フローラ形成のために、全国120以上の病院で「ビフィズス菌M-16V」を無償提供し、健全な成長を支えています。さらに、根本的な問題解決の道を探るため、北海道大学COI(※)の産官学連携による岩見沢母子健康調査を2017年から本格的に開始し、日本の課題の実態把握とその解決に向けての取り組みを進めています。

※腸内フローラ

人の腸内には、数百種類の細菌がすむといわれ、まるで花畑のようであることから「腸内フローラ」と呼ばれています。近年、この腸内細菌のバランスが疾病や肥満に影響を与えていることが解明されつつあります。

※フレイル

加齢とともに心身の活力(運動機能や認知機能など)が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態ですが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持・向上が可能な状態のことをいいます。

※北海道大学 COI

文部科学省および国立研究開発法人科学技術振興機構による「革新的イノベーション創出プログラム」。

この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。





健康・栄養に 配慮した 商品の研究・開発

森永乳業の商品は、現在1,000種類以上。牛乳、ヨーグルト、コーヒー飲料やデザートなど、そのジャンルは多岐にわたります。

中でも、調製粉乳などの育児用食品は、私たちの原点でもあります。長年にわたり、乳幼児の健康と栄養、母乳成分の研究などを進める中で、私たちは常に健康と栄養について知見を深めてきました。その蓄積は、今、多くの商品に活かされています。



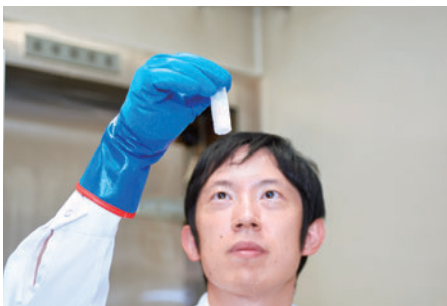
独自素材の研究開発

乳の研究から生まれた機能性素材を 健康の増進に役立てています

森永乳業では、乳の研究を進める中で、数々の機能性素材を開発してきました。代表的なものとして、次の素材があります。

ビフィズス菌 BB536

ビフィズス菌 BB536は、赤ちゃんから発見された、ヒトにすむ種類のビフィズス菌です。特にヒトのビフィズス菌が苦手とする酸や酸素に強く、ヨーグルトなどの商品の中でも長く生きつづけられるため、大腸に毎日届けるビフィズス菌として最適な存在です。整腸作用を中心に人に対して数多くの生理作用を持っており、累計30カ国以上で使用されるなど、世界で認められています。



森永乳業が所有する菌体

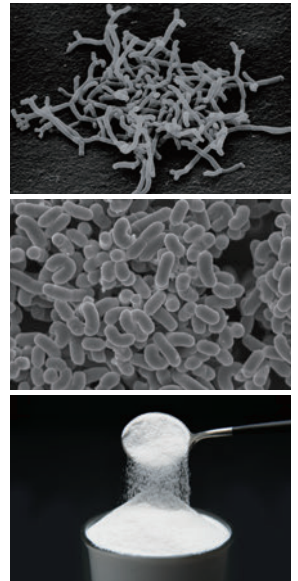
シールド乳酸菌®

シールド乳酸菌®は、免疫力を高める働きに着目して、森永乳業が持つ数千の菌株から選り抜かれた特別な乳酸菌です。シールド(盾)のように外敵から人の体を守ることをキーワードにしています。加熱殺菌体でありながら味を変えない乳酸菌であり、様々な食品に添加できることが特徴です。

ラクチュロース

ラクチュロースは、乳に含まれる乳糖から作られるミルクオリゴ糖の一種です。胃酸や消化酵素で分解されないため、胃や小腸で吸収されことなく大腸までしっかり届いてビフィズス菌のエサとなります。大腸にすむビフィズス菌を効率よく増やす働きがあります。

これらの機能性素材をはじめとする乳の研究成果は、育児用調製粉乳など乳幼児用の商品に反映されるだけでなく、様々な商品に応用されています。



上：ビフィズス菌 BB536
中：シールド乳酸菌®
下：ラクチュロース

成長をサポートする
育児用食品

子どもたちの健康を考え 様々な商品を開発しています



(左) 乳児用の調製粉乳「森永はぐくみ」
(右) アレルゲン性を低減した「MA-mi」

森永乳業は、新生児から乳幼児を対象に、様々な食品の研究開発に取り組んでいます。

新生児から乳児期は、母乳に含まれるDHA、アラキドン酸、ラクトフェリンなどの機能性成分を配合した乳児用の調製粉乳「森永はぐくみ」。12ヵ月ごろからは、苦手な野菜もバランスよく摂れる「やさしいジュレ」。18ヵ月ごろからは、鉄

やカルシウムなどを補給できる成長サポート飲料「こどミル」。お子さまの成長に合わせた育児用食品を開発しています。

また、ミルクアレルギーのお子さまのためにアレルゲン性を低減した「MA-mi」「ニュー MA-1」などの特殊ミルクも開発、販売しています。

ヨーグルト・デザート 他

独自の機能性素材を 数々の商品に活かしています

森永乳業は乳で培った技術を基本とした総合乳業メーカーとして、数々の商品を開発・販売してきました。それぞれの商品には、創業以来100年にわたり、乳と健康について研究してきた成果が活かされています。そして、森永乳業が独自に発見、精製に成功した機能性素材を多くの商品で活用しています。

「ラクトフェリンヨーグルト」

ラクトフェリンは、生乳や母乳に含まれるたんぱく質で、森永乳業が初めて分離・精製に成功しました。体を中から強くし、健康を維持する素材として注目され、「ラクトフェリンヨーグルト」をはじめ様々な森永乳業商品に使用されています。

「ビヒダスヨーグルト」シリーズ

ビフィズス菌は、森永乳業が乳と母子の健康を研究する中で、長い年月をかけて開発してきた素材です。現在、この「ビヒダスヨーグルトシリーズ」をはじめ、多くの森永乳業商品に使用されています。

「乳酸菌と暮らそう」シリーズ

シールド乳酸菌®は、森永乳業が数千の菌株から選び抜いた乳酸菌です。2014年より他企業向けに販売し、これまでに250社を超える企業で使用されています。自社商品としては、2017年に「乳酸菌と暮らそうシリーズ」を発売しました。



(左)「ビヒダスプレーンヨーグルト」
(右)「ビヒダスプレーンヨーグルト脂肪0」



(左)「ラクトフェリンヨーグルト」
(右)「ラクトフェリンドリンクヨーグルト」



乳酸菌と暮らそう
(左)「コクと香りのカフェラテ」
(右)「くちどけなめらかプリン」



健康・栄養を考えて開発された商品。
「Quality of Life」に貢献します

医療食・介護食

食の喜びを実感できる 医療食・介護食を提供しています

森永乳業グループでは、高齢や病気の方も食の喜びを感じることで、「Quality of Life (生活の質)」を維持できるよう、おいしさ、栄養価、安全性、食べやすさなどに細やかに配慮した医療食・介護食の研究開発に取り組んでいます。

現場の声を基に、森永乳業グループの株式会

社クリニコと、森永乳業の健康栄養科学研究所が連携して開発。商品化された流動食、栄養補助食品、ゼリー食品、嚥下困難者向けのとろみ調整食品など介護食は、クリニコが医療や介護の現場に提供しています。

ヘルスケア食品

栄養をもっと手軽に
もっと効率的に

ビフィズス菌やラクトフェリンなど独自に開発した素材は、ヨーグルトなどの商品に配合するだけでなく、ヘルスケア食品として、より手軽かつ効率的に日々の健康維持に活かしていただけます。

ビフィズス菌 BB536 (→P17) を手軽に摂取できる「森永乳業のサプリメント ビヒダス

BB536」、楽しく家事や運動を続けたい人のための「森永乳業のサプリメント 頑張る一日のカバリーペプチド」、大人に必要な栄養素をバランスよく摂れる大人向け粉ミルク「ミルク生活」。その他、様々なヘルスケア食品を開発・販売しています。



(左)「ミルク生活」
(右)「森永乳業のサプリメント」

人以外の
健康・栄養のために

ペット用ミルク

動物の健康・栄養にも
乳のちからで貢献します



(左)「ワンラックドッグミルク」
(右)「ワンラックキャットミルク」

森永サンワールドは、1971年にペットフード類の製造販売業を主目的に設立され、「ペットは家族の一員」という考えのもと、犬や猫の生育と健康を支えるペットフードを開発・販売してきました。

近年では、ペットも長寿となり、肥満、アレルギー、糖尿病などの疾患がふえています。そのため、森永グループの乳の研究で得た知見を駆使し、ペットの健康を守るミルクや離乳食、

ヘルスサポートフード、動物病院専用経腸栄養食など、ペットの健康と長寿のために商品を充実させています。

また、バンダやヒグマ、象や海獣向けの哺乳用ミルクの開発にも力を入れています。森永乳業の研究開発力を活かし、世界ではじめてバンダの母乳をアミノ酸組成に至るまで解析し、1988年にバンダミルクを開発、今ではアドベンチャーワールドなどで使われています。

Voice

「ミルク生活」を
健康を気遣うプレゼントの定番に

“大人のための粉ミルク”「ミルク生活」の開発に2014年から携わってきました。育児用調製粉乳を高齢の方が健康維持のために飲んでいらっしゃる事例があり、お客様の声から生まれた商品ともいえます。成人に必要な栄養素と、森永乳業独自の機能性素材であるシールド乳酸菌®など

も加えています。おいしくなければ飲みつづけてもらえませんから、味にもこだわりました。お客さまから「こんな商品が待っていました」という声が届くと、うれしいですね。健康を気遣うプレゼントの定番として、母の日、父の日、敬老の日などに大切な人に贈ってほしいです。



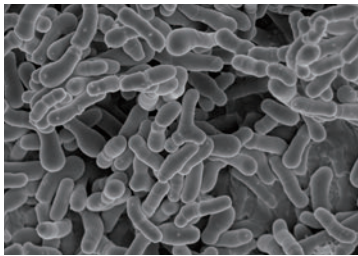
研究本部 健康栄養科学研究所
栄養食品開発グループ 副主任研究員

田中 智弘

ライフスタイルを変革する 技術や素材の研究開発

ビフィズス菌 A1

アルツハイマー型認知症の予防に ビフィズス菌の可能性を探究しています

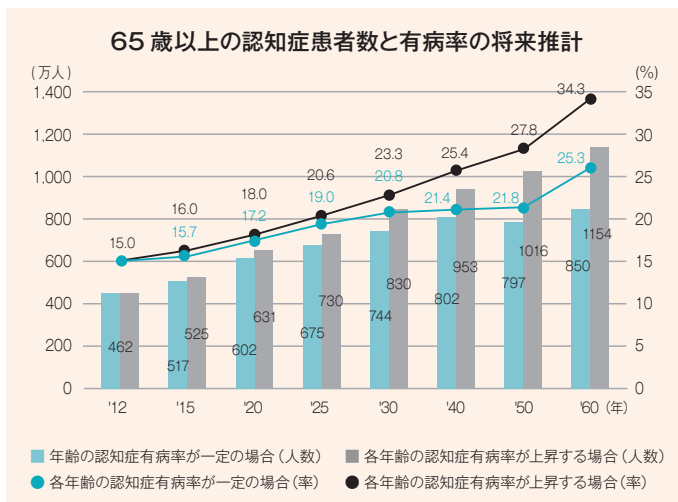


ビフィズス菌 A1

近年、腸内細菌と脳の機能には密接なつながりがあることが知られるようになりました。長年にわたり腸内環境を研究している森永乳業は、この「脳腸相関」に着目し、ある種のビフィズス菌がアルツハイマー型認知症の発症を抑制する可能性があることを発見。「ビフィズス菌 A1」と命名しました。

アルツハイマー型をはじめとする認知症は世界的に増加しています。日本では65歳以上の高齢者が2025年には700万人を超え、その5人に1人が認知症を患うと予測されています。

認知症は、一度発症してしまうと、治療によって進行を止めることや、回復することが難しいといわれています。日常的に摂取できる食品で発症を予防する可能性に期待が高まっています。森永乳業は、ビフィズス菌の研究を通じて、多くの人々の健康寿命を延ばし、ライフスタイルに変革をもたらすことをめざして研究を続けていきます。



出典元：厚生労働省 2015年発表資料
「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）」

ピュアスター

だれもが安全に使える殺菌料で 公衆衛生に貢献します

微酸性電解水生成装置「ピュアスター」は、高い殺菌効力と安全性をめざして森永乳業が開発した衛生管理用装置です。約20年前に食品工場や飲食店、介護施設などに向けて販売を開始し、現在では約5,000件以上の販売実績があります。

「ピュアスター」が生成する微酸性電解水は、消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウムと異なり、塩素臭や肌への影響が少なく、しかも口に入っても安全であることが確認されています。様々なウイルスや食中毒菌・病原菌への殺菌効

果が確認されており、食品加工をはじめとした衛生管理を必要とする現場で有効です。

すでにお使いいただいているお客さまからも「水道水と同じ感覚で使える」「口に入っても安心」など、ご好評をいただいています。

森永乳業がめざすのは、長年培ってきた衛生管理技術を社会へ還元し、あらゆる人々の健康的な生活を守ること。「ピュアスター」のさらなる普及を通して、国内外における公衆衛生の向上に貢献していきます。



微酸性電解水生成装置
「ピュアスターミューククリーンII」



機器の洗浄をはじめとして、さまざまな用途で使用できます



重要取組課題

環境



省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら 安全・安心な商品を製造し、 サステナブルな社会づくりに貢献します。

自然環境は企業活動の基盤

森永乳業の商品は、乳をはじめ、コーヒー豆、茶葉、アロエなど、原材料の多くが自然の恵みである農産物（酪農を含む）からできています。これらの農産物を育ててきた自然に感謝するとともに、これからも、この環境を守りつづけていくことは、私たちが事業を継続していくために不可欠です。

社会的要請に応えるために

環境に配慮した事業活動は、生産工程においてはコスト削減と連動する課題でした。消費エネルギーや廃棄物を削減することが、同時に環境への負荷を減らすことにつながりました。

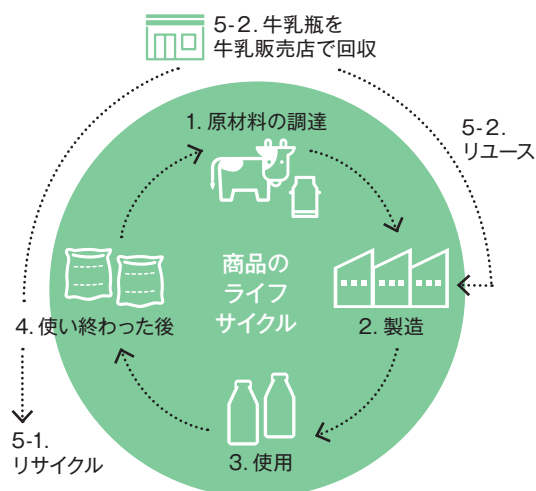
しかし、今はそれだけでは充分ではないと考えようになりました。容器包装のリサイクル問題や散乱による汚染への対応、自然環境に配慮した原料調達など、広範囲での取り組みが必要となります。地球規模での環境の悪化が進行する中で、社会の問題意識も、企業に向けられる目も、一層厳

しくなっています。

森永乳業では、そのような社会の要請に応えるため、また社内での意識の高まりから、2018年6月、それまで生産部門に設置していた環境対策グループを、CSR推進部に移管しました。今後は、環境対策を企業活動全体の重要課題と位置付け、より広い範囲での環境への配慮を進めるとともに、森永乳業の事業と環境の関わりについてさらに意識を高めていきます。

環境の取り組みを通じてサステナブルな社会へ

こうした環境に対する取り組みは、当然のことながら、当社の想いだけで実現できるものではありません。サプライヤーや取引先との情報共有を進めながら、原材料調達における森林保護の取り組み、食品ロス削減、自社工場の廃棄物の削減など、商品のライフサイクル全体を通して環境に配慮した企業活動を推進していきます。企業市民の一員として、サステナブルな社会づくりのために、さらなる努力を続けていきます。



この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。



森林保護のための 原材料の選定

RSPO加盟 他

国際的に認証された原材料を 使用しています



©WWF ジャパン



©WWF ジャパン

上: アブラヤシ農園を開くために、皆伐された土地

下: アブラヤシの実。オレンジ部分からパーム油、種の中の白い部分からパーム核油がとれます



森永乳業は、2018年3月、RSPO(※1)に加盟しました。パーム油は、生産の際に大規模な森林伐採を行うため、生物多様性の喪失など自然環境面への影響、さらには農場での労働上の人権問題も指摘されていました。

森永乳業は、2018年以降、ブックアンドクレーム(※2)でのパーム油の購入を推進し、2020年までには100%をブックアンドクレームで購入する方針です。

コーヒー、紅茶などの飲料に関しては、現在「マウントレニア カフェラッテ」など一部の商品にレインフォレスト・アライアンス認証(※3)の原材料を使用しています。

「MOW(モウ)」の紙スリーブや「ピノ」、「バブル」の包装箱にFSC®認証(※4)紙を使用しています。アイスクリーム商品では、切り替え可能な紙材について、2020年までにFSC®認証紙に移行することを目標としています。

(左) レインフォレスト・アライアンス認証のコーヒー豆を使った「マウントレニアディープエスプレッソ」
(右) FSC®認証の紙スリーブを使用している「MOW」

※1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil(持続可能なパーム油のための円卓会議)。パーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、一定の基準を満たす農場で生産されたパーム油を認証しています。



※2 ブックアンドクレーム

パーム油の生産者が、認証パーム油の生産量に基づいて認証クレジット(証書)を発行。エンドユーザーはその認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組みです。

※3 レインフォレスト・アライアンス認証

非営利団体レインフォレスト・アライアンス(Rainforest Alliance)による認証。地球環境保護と人々の持続可能な生活を確保するために、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、労働環境の向上や生活保障など、厳しい基準を満たした農園にのみ与えられます。



※4 FSC® 認証

森を守る国際的な認証制度。環境保全の視点から適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源を使用していることを、FSC®(Forest Stewardship Council: 森林管理協議会)の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものにだけ付することができます。



Voice

生産の現場にも 社会とのつながりを感じてほしい

工場に勤務していた時は、安定的な製造をすることで環境の負荷を低減するようしていました。今まで環境対策は、生産部門での取り組みがメインだと思っていましたが、今、本社で環境負荷データの集計や分析、環境情報の収集をしていくうちに、生産部門だけではなく、物流や調達などのサプライチェーン全体で取り組む

ことが重要であると考えようになりました。そのためには、社内を横断した環境の取り組みと連携が求められます。

環境に配慮することが、ひいてはサステナブルな社会をつくり、企業の評価につながるということを、製造の現場にも伝えていきたいです。



コミュニケーション本部 CSR推進部 環境対策グループ アシスタントリーダー

北山 梨奈

エネルギーの効率利用

ISO14001

ISOの規格に則った 環境マネジメントシステムを運用しています

森永乳業では、本社・研究情報センター、すべての生産工場、すべての生産関係会社でISO14001(※)認証を取得しています。環境に配慮した事業活動のための指針としてISO14001の規格に則り、3つのポイントに重点を置いて運用しています。

※ ISO14001

企業や工場などが地球環境に負担をかけずに運営していくための仕組みである「環境マネジメントシステム」の仕様を定めた規格。基本的な構造は、PDCAサイクルと呼ばれる「方針・計画(Plan)」「実施(Do)」「点検(Check)」「是正・見直し(Act)」のプロセスを繰り返すことで、環境マネジメントのレベルを継続的に改善していくというものです。

1. 従業員の意識教育

本社・各事業所において、eラーニング、講習、勉強会などを通し、すべての従業員の意識を高めるための施策を展開しています。

2. 環境法令の順守確認

排水処理場やボイラーなど、環境汚染の原因となる可能性のある設備の管理状況を確認し、最新の法令に則ってチェックしながら、環境法令を遵守するよう努めています。

3. 社会要請に応える施策

環境や状況の変化とともに、社会が要請する課題の優先順位は年々変化しています。その変化をとらえ、常に試行錯誤しながら、よりよい改善策を実行するよう心がけています。

これらの活動の状況は、内部監査により確認をしています。

TPM活動

生産効率を高めることで エネルギー排出を抑制しています

TPM(※)活動は、製造におけるあらゆるリスクを徹底的に排除し、安定した生産を行うための活動です。森永乳業の各工場では、工程を安定化することにより、廃棄物や用水使用量またCO₂排出量削減に努めています。

※ TPM

Total Productive Maintenanceの略で、全員参加の生産保全、生産システム効率化を極限まで追求する活動。



TPM 指導会の様子

バイオマスエネルギー

自社工場の副産物を 一部燃料に使用しています

森永乳業神戸工場では、コーヒー飲料製造時に排出されるコーヒーかすなどを、バイオマスボイラーで燃焼させエネルギー化しています。バイオマスエネルギー(※)は、カーボンニュートラルなエネルギーなので、CO₂排出量削減にも貢献しています。

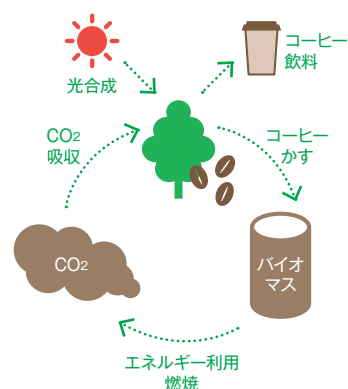
※バイオマスエネルギー

植物などの有機物を原料としたエネルギーの総称。化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待されています。



神戸工場にあるバイオマス熱利用施設

カーボンニュートラルの仕組み



食品ロスの削減

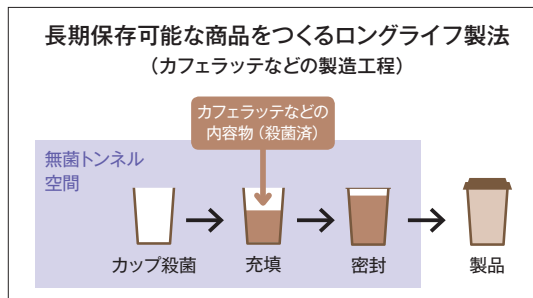
ロングライフ商品

保存期間を長くすることで 廃棄される商品を減らします

森永乳業では、長期保存可能な飲料や豆腐の開発を通じて、食品ロスの削減に貢献しています。

食品を長期間常温で保存すると、通常は腐敗します。腐敗は、細菌やカビ、酵母など目に見えない小さな生き物たちが原因です。長期間保存できるようにするためには、全く菌がいなくなるまで殺菌し、遮光性・密封性の高い容器に充填することで、常温での長期保存を可能にしています。

殺菌、充填の方法や容器の工夫により保存料や防腐剤を使用せず、「おいしさ」と「長持ち」を両立させる商品となります。



森永乳業のロングライフ商品の一例

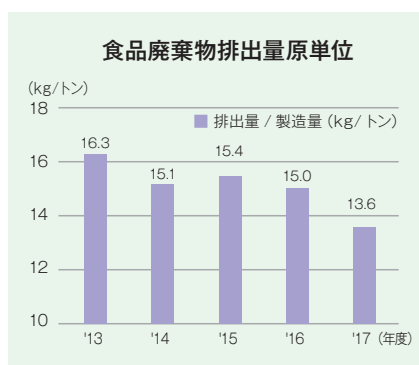
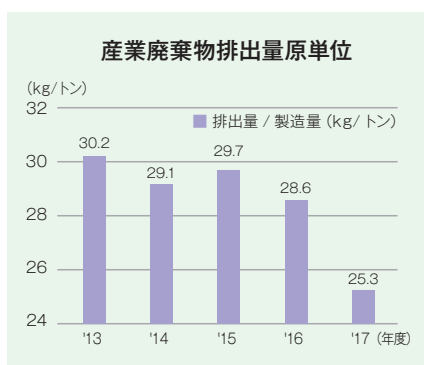
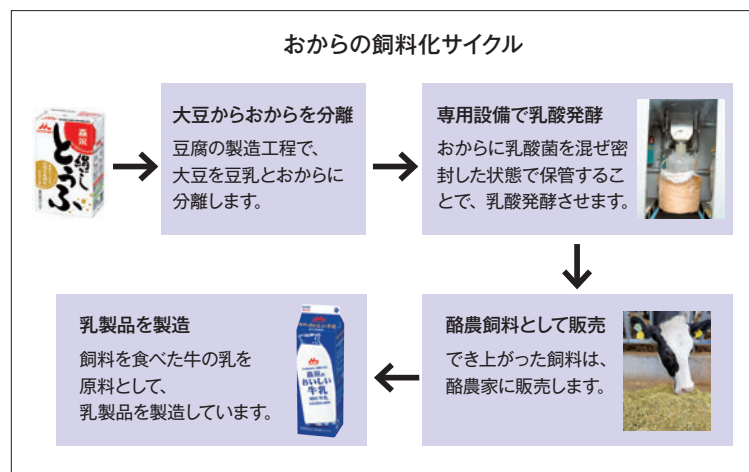
おからの飼料化

豆腐製造で出るおからを 飼料化して酪農に利用しています

豆腐製造時に出るおからを、飼料として利用しています。

おからに乳酸菌を混ぜて発酵させることで風味良好的なサイレージ飼料をつくり、グループ会社の森永酪農販売が酪農家に販売しています。東京都内にある当社の工場では、この飼料を給餌している乳牛からの生乳を使用して、乳製品をつくっています。

本取り組みは2017年度、「第5回食品産業もったいない大賞」にて審査委員会委員長賞を受賞しました。



産業廃棄物排出量原単位：
年間で排出した産業廃棄物の重量 (kg) を
年間製造量 (トン) で除した数値

食品廃棄物排出量原単位：
年間で排出した食品廃棄物の重量 (kg) を
年間製造量 (トン) で除した数値

情報公開の推進

ウェブページを通じての 情報発信

森永乳業のウェブサイトでは、食品の保存方法や容器の分別方法を各工程について写真付きで掲載し、情報を発信しています。お客さまが正しい知識を得ることで、食品廃棄物の削減につなげていきたいと考えています。また、CSRのページでは、産業廃棄物排出量や再資源化率などの環境データを公開しています。



CSRのページで環境データを公開
<http://www.morinagamilk.co.jp/csr/databook/>

お客さま相談室ページの「よくいただく質問」では、キャップ付き紙容器の分別方法など様々な情報を発信しています

排水処理技術の 向上

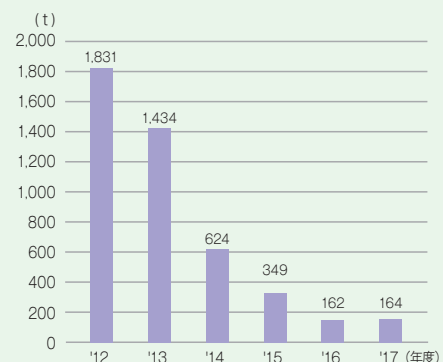
ファインバブル導入

排水処理を効率化し 排出汚泥を削減しています

森永乳業東京工場は2013年度に排水処理の効率化のため、ファインバブル設備を導入しました。

一般的に排水処理に使われている活性汚泥法は、微生物で汚濁物質を分解してきれいな水にする方法です。その前処理として、直径数十マイクロメートル以下の微細な気泡（ファインバブル）を吹き込むことで、これまで分解が困難だった油脂成分の処理が安定して行えるようになりました。これにより、生産量に大きな変化がないにもかかわらず、余剰汚泥発生量を2012年度比で90%削減できました。

東京工場の余剰汚泥発生量の推移



輸送エネルギー 削減

共同配送・ モーダルシフト

輸送を効率化し 環境負荷を軽減しています

森永乳業では、輸送によって生じる環境負荷を軽減するため、共同配送、モーダルシフト（※）などの取り組みを行っています。

共同配送については、以前より同一の流通拠点を使用する同業他社とアイスクリーム商品の共同配送を進めてきた経緯があり、その他の商品分野でも、2014年度以降、毎年平均2~3件の共同配送を行ってきました。2018年度は、同業他社などとの共同配送を、全国各地で計4件計画しています。

一方、2014年度よりモーダルシフトにも積極的に取り組み、主に流動食や容器等の長距離運送について、鉄道や船便への切り替えを進めています。2017年度は、トンキロ（※）で約21%が鉄道および船舶輸送となり、約12,000トンのCO₂排出が削減された計算になります。

今後は輸送用車両についても、クリーンディーゼル車、ハイブリッド車、電気自動車など、大気汚染物質の排出量が少ない「低公害車」の導入促進を検討します。

※モーダルシフト

輸送手段の転換。自動車による幹線貨物輸送を、大量輸送が可能でCO₂排出量が少ない鉄道や海運に転換することで、環境負荷の軽減が期待できます。

※トンキロ

輸送物量(トン数)とそれを輸送した距離(キロ[km]単位)を掛け合わせたもの。



重要取組課題

人権

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

「人権」は、近年特に社会的注目が高まっている分野です。国内外で事業を展開する責任ある企業として、森永乳業も人権に配慮した施策を社内外で進めています。

関わる人すべての人権に配慮します

原材料の調達から、商品がお客さまに届くまでのすべての段階において、人権への配慮は重要です。

2018年4月、森永乳業は持続可能な成長を実現するために「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。その指針である4分野のひとつが、「人権」です。「人権擁護の支持と尊重」と「人権侵害への非加担」を原則とすることを表明しました。

また、経済人コーポラシオン日本委員会が運営する「ステークホルダー・エンゲージメント・プログラム」に2017年から参加し、NPO/NGOなどの各団体や有識者と、マルチステークホルダーとの対話を通じて、人権課題に関する意見交換や情報共有を行っています。次の段階として、人権に対す

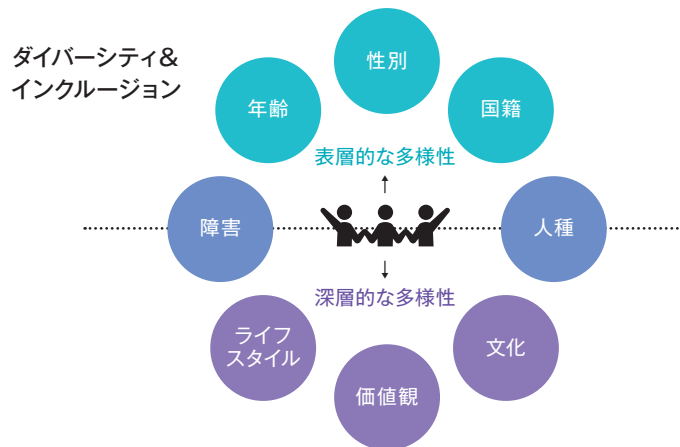
る森永乳業としての姿勢をより明確にするために、「人権方針」策定の準備を進めています。

多様な人が活躍できる職場環境を整えます

森永乳業は「ダイバーシティ(多様性)」を尊重し、社内の施策を重点的に進めています。

2017年1月には、就業規則に「国籍、人種、性別、障がいの有無、信条、性的指向、または社会的身分を理由として労働条件について差別的取り扱いを行わない」ことを明記し、この考え方を社内に広めています。

ダイバーシティは、国籍や性別などの表層的な違いだけでなく、価値観やライフスタイルなどの深層的な違いを含めた多様性ととらえることが大切です。「人は一人として同じではない」という認識を基に、一人ひとりが持てる能力を十分に発揮できるよう、また、自律的に行動しながら「働きがい」を感じることができるよう、制度・環境を改善していきます。



この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。



人権の尊重

ステークホルダー・
エンゲージメントへの参加

人権デューディリジェンスに 取り組むために



経済人コー円卓会議日本委員会が運営する「ステークホルダー・エンゲージメント・プログラム」に参加 ©「2017CRT-Japan」
http://crt-japan.jp/portfolio/stakeholder_engagement_program/

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、日本企業のサプライチェーンを含む「ビジネスと人権」に関する取り組みに対して、関心が高まっています。森永乳業は、人権デューディリジェンス(※)に取り組むために、経済人コー円卓会議日本委員会が運営する「ステークホルダー・エンゲージメント・プログラム」に2017年から参加し、「食品業界における重要な人権課題」をまとめ、その課題に対

する森永乳業の取り組み状況を整理しています。また、2018年は、海外の有識者と「ビジネスと人権」について対話する場を設けました。世界で議論されている課題を把握し、森永乳業が今後対処すべき課題を洗い出すとともに、対応を進めていきます。

※人権デューディリジェンス

企業が、人権に関連する悪影響を認識、防止、対処するためのプロセス。人権に関する方針の策定、企業活動が人権に与える影響の評価、パフォーマンスの追跡や開示などを行う。

人権に配慮した 調達

CSR 調達アンケート

原材料生産地の 労働環境への配慮

原材料の生産・加工現場での、現地の労働環境について、「CSR 調達アンケート」などにより定期的に調査しています。設問は、人権をはじめコンプライアンス、環境管理、地域社会との関係、情報セキュリティなど26項目にわたり、サプライヤーに対して詳細で正確な回答を求め

ています。

また、原材料調達にあたっては、RSPO認証(→P23)、レインフォレスト・アライアンス認証(→P23)の原材料使用を推進しています。適正な労働環境を求めることで、環境だけではなく人権への配慮にもつながっています。

労働安全衛生の 強化

安全衛生基本方針

従業員の安全と健康のために 安全衛生基本方針を策定

森永乳業グループでは、従業員の安全と健康の確保について、「安全衛生基本方針」を定めるとともに、特に生産部門においては、工場ごとに労働安全衛生関連法令および社内規程に

基づく安全衛生管理体制を構築しています。

労働安全衛生マネジメントシステムに則った活動により、安全衛生水準の向上を図るべく目標・計画を作成し、取り組みを推進しています。

Voice

10年後には、ダイバーシティ&インクルージョンが 当たり前な会社に

人財部として、働く女性の活躍支援をはじめ、様々な施策に関わってきましたが、2018年は当社にとって「ダイバーシティ元年」だと考えています。ダイバーシティは管理職にとっても大きな課題です。組織に貢献し、成果を出すことはもちろん、部下のワークライフバランスに配慮し、部

下のキャリアと私生活を応援している上司を表彰して、その実例を社内に広めるため、2018年から「イクボス大賞」をスタートしました。風土を変えるのは時間がかかりますが、10年後には「ダイバーシティ&インクルージョン」が当たり前な会社になりたいと思います。



コーポレート本部 人財部人財グループ リーダー
川口 佐和子

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ&インクルージョン

多様性の理解と受容に向けて

「ダイバーシティ」とは多様性。しかし、単に多様性を認めるだけではなく、それぞれが個性を発揮しながら互いの違いを受容（インクルージョン）し、企業理念の実現に向け一体となって企業活動を推進することが大切だと森永乳業は考えます。「ダイバーシティ&インクルージョン」を全社員が正しく理解し実現するため

に、全国の事業所でダイバーシティ&インクルージョンに関する説明会を実施しました。

また、2017年には、当社を含む食品企業5社が共同で「ダイバーシティフォーラム」を開催。基調講演や各社から選ばれた社員によるパネルディスカッションを行い、約500名が参加しました。



食品企業5社共同で「ダイバーシティフォーラム」を開催

ダイバーシティ&インクルージョンの目標指標

目標項目		現状 (2017年)	目標 (2027年)
働き方	在宅勤務・サテライト勤務制度の利用者数	67名	→ 1,000名
	年次有給休暇取得率	62.8%	→ 85%
性別役割分担意識の排除	新卒採用時の女性比率 (※)	40%	→ 50%
	女性管理職数	38名	→ 100名
	配偶者出産休暇取得率	68%	→ 100%
	男性育児休業取得率	9.3%	→ 100%
介護支援	介護による離職者数	6名	→ 0名

(※) 事務営業職、研究開発職計

ワークスタイル変革の推進

さまざまな働き方の選択に向けて

2017年に「ワークスタイル変革委員会」を立ち上げ、多様な背景を持つすべての社員がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう、インフラ環境や諸制度の整備を進めています。

また、一部の業務を除く全事業所を対象に「在宅勤務」を導入し、一人ひとりがワークライフバランスを意識しながら、働き方を選択できる制度を整えています。

2018年には「治療と仕事の両立」に着目し、

継続的な治療が必要な社員が安心して働きつづけられるよう、「短時間勤務」「短日勤務」「時差勤務」という3つの制度を導入しました。

治療と仕事の両立支援制度

短時間勤務制度	1日の労働時間を最大2時間短縮できる制度
短日勤務制度	年休を使わずに週4日勤務を可能にする制度
時差勤務制度	労働時間を短縮せずに、前後に2時間までずらすことができる制度

女性活躍の推進

「働きやすさ」から能力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場へ

2007年より「次世代育成委員会」として、子どもを持つ女性社員の声を聞く機会を設けました。この委員会から「短時間勤務」や「学校行事休暇」の制度が生まれています。

このような女性活躍推進を、近年はダイバー

シティ推進の一環としてとらえ、女性の「働きやすさ」だけでなく、能力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場環境をめざして、多様な働き方を志向できる制度の構築などを進めています。

重要取組課題



供給



環境・人権に配慮した原材料を調達し、安全・安心を重視した製造を経て、高品質な商品をお届けします。

安定的な原材料調達をめざして

森永乳業は、原材料として乳を中心とした酪農資源を調達しています。調達先は、国内はもとより、オセアニア、欧州など広範におよびます。近年、地球温暖化、異常気象などの影響から、安定的な調達が年々困難になってきています。

安全・安心な商品をお届けするために、品質の高い原材料を安定的に調達すべく、様々な取り組みを行っています。

環境・人権への配慮

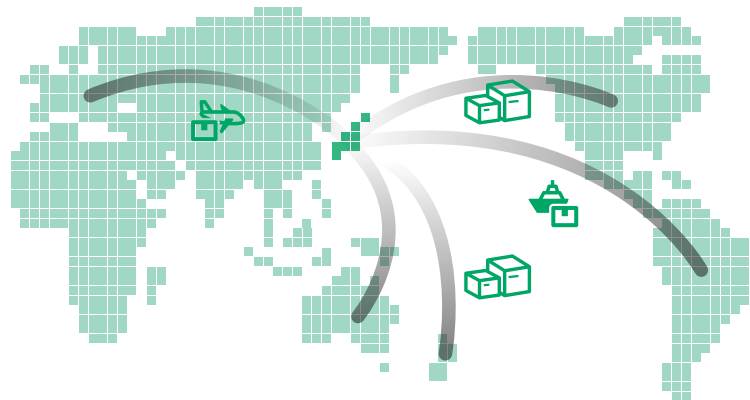
原材料の調達にあたっては、環境破壊や児童労働・強制労働などが起きていないか、サプライチェーンも注視する必要があります。森永乳業は、環境負荷の少なく、人権に配慮した紙、コーヒー豆、パーム油の利用を進めていきます。

安全性の確保

工場では、品質管理を徹底しています。特に育児用調製粉乳をはじめ、乳児やお子さま向けの商品は、より高い安全性が求められます。

原材料や商品の安全性の検証にあたっては、お客さまの視点を忘れずに、厳しい目で検査をしています。信頼される品質が確保されてこそ、安心が生まれると確信しています。

原料調達から商品の生産・物流という「供給」の領域は、サプライチェーンの重要な工程です。いずれのプロセスでも、森永乳業の安全・安心と高品質を支えるための取り組みを真摯に続けています。



この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。



原材料を安定調達する

複数社購買・代替原料開発

原材料調達の様々な施策で安定した品質・価格を実現しています

国内の生乳生産量は、1996年度の866万トンピークに減少を続けています。現在、牛乳・乳製品の国内消費量は生乳換算で約1,200万トンといわれ、その約4割を輸入乳原料に頼らざるを得ない状況です。森永乳業では、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパなどから乳原料を調達していますが、天候や国際情勢に影響を受けるリスクがあることから、できる限り複数の購買ルートを確認するように努力しています。そう

することで、常に適切な価格で安定した品質の乳原料を購入する体制を整えています。

また、将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう、研究所や工場などと協働して配合設計の研究を重ねています。

一方で、国内における酪農の持続的な発展は重要な課題です。酪農家を支援するために、森永酪農振興協会を通じて、酪農振興に努めています。

環境・人権に配慮した調達

調達方針の策定

すべての取引を対象に調達方針を策定しました

森永乳業グループは、「調達方針」を策定して、環境・人権に配慮した調達を推進しています。その方針のもと、RSPO認証、レインフォレスト・アライアンス認証、FSC® 認証など、環境や人権に配慮した原材料を調達するよう努めています。(→ P23)

こうした環境や人権に配慮した原材料の使用にあたっては、商品の価格や品質、輸送効率などにも影響をおよぼすことから、各部署を横断した情報共有を行い、取引先・サプライヤーとも連携・協力して取り組んでいます。

森永乳業グループ 調達方針

1. 法令、社会規範を遵守し、人権、環境、生物多様性、労働安全衛生などに配慮することを重視した公正な取引に努めます。
2. 森永乳業グループがお客さまに提供する商品の品質や価値の向上につながるため、原材料の品質、安全、技術力、価格、納期などの領域において、お取引先さまとの協働関係を重視します。
3. 調達活動を行うにあたり、すべてのお取引先さまに公平、公正、透明な取引の機会を提供し、その取引を実践します。

Voice

品質管理の維持・向上に貢献して海外にも安全・安心をお届けしたい

大和工場で、FSSC22000 認証の事務局を担当しています。FSSC22000 認証は、一度取得したら終わりではなく、定期的に審査があるので、年々レベルを上げていくことが必要で気が抜けません。将来は、この工場での経験を活かして、森永

乳業の品質管理システムの維持向上に貢献できたらと思います。私が品質管理を担当した森永乳業の製品が、海外のスーパーやショップに並ぶようになったらうれしいですね。



大和工場 品質管理室 リーダー
鍵福 怜

安全・高品質な商品を提供する

FSSC22000認証取得
風味パネルマイスター

製造現場の品質管理では 徹底した検査を重ねています

食品メーカーである森永乳業にとって、安全・安心と高品質な商品の提供は、事業の要です。

育児用調製粉乳を製造している大和工場では、FSSC22000(※)認証を2014年に取得しました。この認証は、国際的な食品安全システム規格で、HACCPを基本としたフードセーフティーと、人為的な食品危害を防止するフードディフェンスのふたつを軸としています。安全・安心な商品をお客さまに提供しつづけるために、持続的な改善による品質の維持向上をめざしています。

また、品質管理においては、科学的な検査で数値を測定するよりも、人間の舌のほうが感度が高い場合も多くあります。そこで森永乳業

では、社員の中から特に風味感度が高い者を発掘し、「風味パネルマイスター(※)」として認定。わずかな異常も出荷前に人間の舌で感知できる体制を整えています。

※FSSC22000
Food Safety System Certification 22000の略。GFSI(Global Food Safety Initiative)によって承認された食品安全のためのシステム規格。ISO22000をベースに、より確実な商品安全管理を実践し、消費者に安全な食品を提供することを目的としています。

※風味パネルマイスター
毎年、全従業員を対象に認定会を行い、好成績を収めた者が風味パネルマイスターとして認定されます。3年連続でマイスターに認定されると、グラントマイスターと呼ばれます。現在66名のマイスターが活躍しています。



上: 徹底した安全管理体制が行き届いた工場にて育児用調製粉乳を製造しています
下: 全社で毎年行われる風味パネルマイスター試験

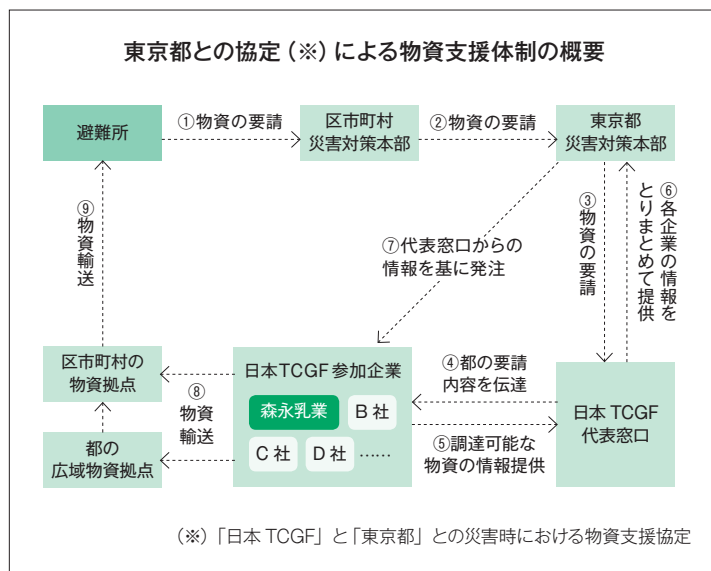
BCP対策の 整備

BCPの策定

大災害時にも迅速に物資を供給できる 体制を構築しています

森永乳業では2013年にBCP(事業継続計画)を策定。災害など緊急の事態が発生した際の各種対策、役割分担などを明文化し、関係部署が円滑・迅速に行動できるようにしています。BCPは、大きな環境の変化があった際、または定期的な訓練により実効性の見直しを行い、お客さまや取引先、地域社会などのステークホルダーからの期待や要請に的確に応えられるよう改善をはかっています。

また、森永乳業は、消費財流通業界が主体となって2011年8月に立ち上げた「日本TCGF(The Consumer Goods Forum)」に参加しています。その活動のひとつである「震災対策共有化プロジェクト」では、関係各社と協力し首都直下型地震などの大規模災害時の迅速な支援物資調達体制を構築しています。



重要取組課題



次世代育成



サステナブルな社会づくりに貢献する 次の世代を育成し、未来をつくります。

子どもの心身の成長に、多角的に貢献します

育児用調製粉乳の製造・販売を行っている森永乳業では、子どもたちの健康と栄養を常に考え、研究を続けてきました。そして、多くの商品を開発・販売することで、子どもたちの成長に貢献してきました。

しかし、社会と企業との関係、社会が企業に求めるものは、時代とともに変わりつつあります。

商品だけでなく、企業が蓄積してきたノウハウや知見を活かし、子どもたちの心身の成長に貢献することが求められていることから、森永乳業は、「未来をつくる子どもたち」へのプログラムを作成し、提供しています。

子どもの成長を支援する多彩なプログラム

森永乳業は、未来をつくる子どもたちが、生活全般において、自ら考え、情報を選び取り、生きる力を身につけてもらいたいという想いから、「出前授業」「森永リトルエンゼル育成 森と食の探検隊」「キッザニア ミルクハウス」などの活動を行っています。

また、これからの社会を担う子どもたちの育成を支援する活動として、企業訪問などへの対応も

行っています。子どもたちが、どのように未来を見つめ、切り拓いていくのか、「働く」ことに何を見いだすのか。子どもたちとともに向き合い、「よき先輩」としてアドバイスできる機会を積極的につくっています。

食の大切さを伝える

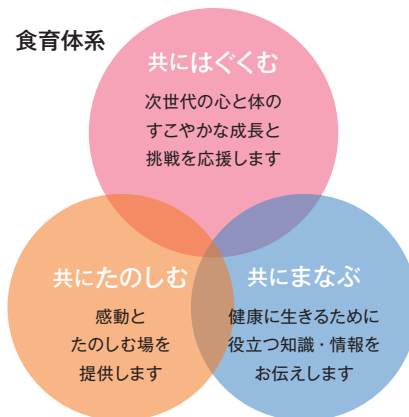
森永乳業は、2017年に「食育方針」を策定しました。多様な暮らし方やあふれる情報など、食を取り巻く環境は変わりつつあります。お客さまに寄り添い、毎日と未来のために、笑顔と健康な暮らしを食育活動でともに支えます。

その一環として、森永乳業の社員が講師となる「パッケージから牛乳のひみつを探ろう」が2015年にスタートしました。小学校向け出前授業で、自ら食品を選ぶ力「食選力」を養います。現在は首都圏のみの活動ですが、より広く展開したいと考えています。

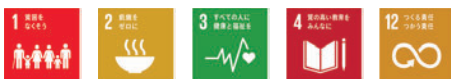
子どもたちに「食」の大切さを伝える活動は、関わる社員一人ひとりが、森永乳業の未来とともに社会の未来を考える大切な機会となります。今後も、「かがやく“笑顔”」をめざす事業の一環として、次世代を育成する活動に力を入れていきます。

森永乳業の食育方針

全世代の
かがやく“笑顔”のために
共にはぐくみ
共にたのしみ
共にまなびます



この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。





子どもの成長を支援する



上：木登りで挑戦する力、危機管理能力を身につける 下：ライフジャケットで溪流を下るキャニオニング

森永リトルエンゼル育成 森と食の探検隊

自然の中の共同生活で 生きる力を身につける4泊5日

「森永リトルエンゼル育成 森と食の探検隊」は、森永乳業が2015年から実施している野外教育活動です。活動理念は、「大自然の中での直接体験を通して、生きる上で大切なものを自ら発見する」。小学校4～6年生の30人の子どもたちが参加し、夏休みに那須塩原のキャンプ場で4泊5日の共同生活を送ります。

自然の中で力を合わせてのテント設営や、炊飯、片付け、農作物の収穫、川で掴み取りしたマスを自分たちでさばくなどの体験を通して、仲間と協力し尊重し合うことの大切さ、共同生活

の中で自分の役割を見つけやり遂げることの困難さなどを学びます。

また最終日には、森永乳業東京多摩工場の見学も実施。生産現場で商品になるまでの過程を実際に見ることで、自分たちが普段食べているものがどのようにできているかを知り、理解します。

4泊5日の体験の中で、子どもたちが様々なことに挑戦し、自ら考え、行動する姿勢を身につけることが、未来を生きる力につながります。

キッズニア 「ミルクハウス」

商品開発体験を通して 子どもたちの挑戦と成長を応援

子どもたちがあこがれの仕事にチャレンジし、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができる“子どもが主役の街”「キッズニア東京」「キッズニア甲子園」に出展しています。森永乳業のパビリオン「ミルクハウス」では、子どもたちが「ミルクフードメーカー」となって、ベースとなる乳製品にソースやトッピングなどの組み合わせを考え、商品を完成させます。また、職業体験に参加できない3歳未満のお子さまのために、自由に遊べる「乳幼児エリア」を併設し、育児

用調製粉乳や離乳食を無料でご提供しています。

「ミルクハウス」での楽しい体験を通して、「お客さまに新しい『付加価値』を提供する職業を体験し、理解する」、「牛乳・乳製品に親しみを持つ」、「酪農業界への理解・関心を持つ」ということを子どもたちに伝えていきます。

2017年度には、東京：39,541人、甲子園：40,479人の方にパビリオンを体験いただきました。



「ミルクフードメーカー」になって、お客さまが喜ぶ商品を開発。商品開発シートがしまえる開発ノートももらえます

Voice

子どもたちの未来に 真剣に取り組んでいます

「森と食の探検隊」には、その前身の「無人島探検隊」のときから企画・運営に参加しています。企画段階やキャンプ期間中には、大変なこともたくさんありますが、子どもたちにとって楽しくて意義深い5日間になるように、期間中もスタッフ同士でコミュニケーションをとり、どうすればもっとよくなるかを考えています。最終日、み

んなどことなくたくましくなって別れを惜しんでいる姿を見ると、本当にやっていたよかったと思います。

「森と食の探検隊」も「キッズニア ミルクハウス」も、子どもたちの未来に真剣に取り組む、森永乳業らしい活動だと思っています。こうした活動を通じて企業としての価値を感じていただけたとうれしいです。



コミュニケーション本部 CSR推進部 CSR企画グループ
アシスタントリーダー

森 絵里香

キャリア教育を支援する

企業インターワーク

課題に取り組み

思考力・判断力・表現力を育みます



スカイプを通して神奈川県
高校生たちと対話する様子

株式会社トウワイス・リサーチ・インスティテュートが運営する中学・高校生を対象とした実践的なPBLプログラム(Program Based Learning)に、2014年から参画しています。企業が学校に出向く、またはスカイプなどの映像通信を利用した遠隔会議で、生徒たちが企業の提案する課題に取り組むプログラムで

す。生徒たちが主体的に調べ、その結果をプレゼンテーションし、人格形成、職業観、道徳観など社会に出たときに必要となる力を育みま
す(2017年度、森永乳業から「ビフィズス菌が健康に良いことをアピールする」という課題を出題)。参加する生徒は年々ふえ、2017年度の森永乳業の課題への参加は、800名を超えました。

企業訪問

「働く人」と対面する機会に

中学・高校生の修学旅行などでの企業訪問にも対応しています。森永乳業の商品について、より深く知っていただくと同時に、実際の仕事内容や働きがいなどを、社員が生徒の皆さまにお伝えしています。商品をお客さまのお手元に届ける過程で、様々な社員が責任を持って役割を果たしていることを知り、生徒が将来の進路を考えるきっかけづくりになることを期待しています。

出前授業

将来は全国の拠点での展開をめざして



都内の小学校での出前授業で、牛乳と低脂肪牛乳を比較する子どもたち

当社社員が講師となる出前授業「パッケージから牛乳のひみつを探ろう」を小学校で積極的に展開しています。このプログラムは、牛乳と低脂肪牛乳の違いを五感を使って比較したり、パッケージから情報を読み取る力を身につけたりすることを狙いとし、他の食品を選ぶときにも応用できる「食選力」が身につけられます。

子育てを支援する

エンゼル110番

情報があふれる時代だからこそ 対話と寄り添う姿勢を大切に



相談員がていねいにお話をうかがい、悩みを解決する方法を一緒に考えます

妊娠中から小学校就学前まで、妊娠・育児に関する質問・疑問をお受けする無料電話相談「エンゼル110番」。2017年度は16,037件、1975年の開設以来、延べ95万件を超えるご相談にお応えしてきました。

インターネットでかんたんに情報が得られる時代ですが、いったいどの情報が正しいの

か、また、親世代の常識と最新の情報、どちらを信じたらよいかなど、子育ての不安は尽きることがありません。匿名で相談ができ、専門知識を持つ相談員が個々のケースに寄り添って一緒に解決の道筋を考えられるようにサポートする「エンゼル110番」は貴重な存在。悩みを抱えるご両親だけでなく、祖父母の方からのご相談もふえています。相談員は広い視野を持つよう心がけ、より一層、真摯な対応をしています。



重要取組課題



人財育成

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に 力を入れていきます。

めざすのは、挑戦しつづける企業風土

森永乳業は、100年を超える歴史を通して、品質にこだわるよき企業風土を培ってきました。これからの100年に向け、築きあげてきたものを大切にしながら、社員が生き活きと、一丸となって挑戦しつづける企業風土をこれからも創造していきます。

「自律型人財」を育成するために

挑戦しつづける企業風土を築き上げるためには、社員一人ひとりが自らの能力を高めていくことが不可欠です。自ら課題を設定して行動し、成果へとつなげる人財、すなわち「自律型人財」であること

が求められています。

そのような人財を育成するために、森永乳業は様々な施策を充実させています。

“人を育てる”企業文化へ

持続可能な成長をめざす企業として人財を育成するためには、社員一人ひとりが「自ら育つ」という意識を持つと同時に、会社は次世代を担う人財を育成する責務も背負っているという認識が大切です。それぞれの職場で人を育てる文化が根付き、育成のサイクルが永続的に廻っていく。それが、森永乳業が理想とする人財育成です。

森永乳業 人財育成の考え方

- ・ 経営理念や行動指針に基づき、自らの役割と責任を認識し、革新や変革に果敢に挑戦できる人財を育成する。
- ・ 将来を担う中核となる人財を、計画的に育成する。
- ・ 多様性を尊重し、他者と連携し組織に貢献できる人財を育成する。
- ・ 社員は、自らの成長に対して、主体的・自律的であることを基本とし、会社は、社員が成長するための機会を付与する。
- ・ 人財を育成する責任を有する上司や先輩の育成指導力の向上を図る。



この項目の森永乳業グループの活動は、SDGsの以下の目標に関連しています。



社内を 活性化する

人財育成プログラム・ 自己啓発支援

キャリアスタイルを自立的に選択しながら 能力とモチベーションを高める支援を継続

森永乳業では、社員がそれぞれのキャリアスタイルを選択し、自身の能力とモチベーションを高めながら働くことができる環境づくりをめざしています。そのために、様々な立場の社員に対して、きめ細かな人財育成プログラムや自己啓発支援を整えています。



グループワークで意見を出し合い、ブラッシュアップ

2018年度 人財育成体系

	1年目 若手社員	2年目	3年目	4年目	5年目~	10年目~	15年目~	20年以上
	若手社員		中堅社員		管理職層			20年以上
階層別教育	新入社員 研修	2年目 フォロー 研修	3年目 レベルアップ 研修		主事 昇格者 研修	プレ・ マネジメント 研修	マネジメント 昇格者研修	各種 経営層 研修
	若手社員メンター研修				人財マネジメント研修			
自己啓発支援 プログラム	eラーニングライブラリ							
	通信教育							
	講座型社外ビジネススクール研修(異業種交流)				国内大学院 MBA 派遣			
職場教育支援	「学びサポート」による学習費用支援							
ダイバーシティ 支援プログラム					女性リーダー研修			
					仕事×子育てパワーアップセミナー			
					ライフプランセミナー			
	イントロダクション・プログラム(キャリア採用者向け導入プログラム)							
グローバル 人財育成 プログラム	海外異文化体験チャレンジ研修(選抜)							
	グローバルビジネススキル・アセスメント(選抜)							
	海外トレーニー制度(選抜)							
	オンライン英会話(費用補助)／社内語学教室(英語)							
	TOEIC 受験・奨励金制度							
					短期海外語学スクール派遣(英語)			
	eラーニングライブラリ 語学							

階層別教育

「新入社員研修」、新入社員をサポートする若手社員のための「若手社員メンター研修」、マネジメントの原理原則を学び考える「プレ・マネジメント研修」、部下を育てる心得とスキルを学ぶ「人財マネジメント研修」など、各階層に応じた研修プログラムを用意しています。

自己啓発支援プログラム

森永乳業では、自身のパソコンやスマートフォンを利用して好きな講座を学習できるeラーニングを導入。また、1973年に導入した通信教育は費用の一部を会社が負担し、奨励金として支給しています。現在は、語学、マネジメント、ライフプラン、各種資格など約300講座から選択でき、社員の約7割が受講しています。

講座型社外ビジネススクール研修についても費用の一部を会社が負担し、受講を推奨しています。業種も年齢も異なる他社から参加した受講生とともに自らの考えを深め、知見を広める機会としています。

ダイバーシティ支援プログラム

ダイバーシティ推進の一環として、社員の多様な働き方を支援する研修・セミナーを各種用意しています。

「女性リーダー研修」は、女性が多様なライフイベントを迎えながらキャリアを考える中で、既成概念に囚われずに自分なりのマネジメントスタイルを築き上げるための研修です。これまでに6回実施し、100名以上が参加しました。

「仕事×子育てパワーアップセミナー」は、限られた時間の中で質・量ともに実りある仕事の成果を出し、モチベーション高く仕事に向き合える自分のワークスタイルを身につけてもらうセミナーです。2018年で3回目となり、延べ50名以上が参加しています。

グローバルに活躍できる 人財を育成する

グローバル人財育成
プログラム

異文化を尊重し、協働するための
コミュニケーション力を磨く



上:シンガポールでさまざまな文化の違いを学ぶ
右:実際に街へ出てコミュニケーションをとる
参加者



海外勤務や海外企業との交渉など、グローバルなビジネス環境で活躍する人財を育成するために、様々なプログラムを用意しています。「海外異文化体験チャレンジ研修」では、中国系、インド系、イスラム系など多様な文化が共存するシンガポールに1週間滞在します。コミュニケーションのために大切なものは語学力だけではなく、相手の文化的背景を理解し尊重する姿勢、伝えようとする意欲、そして、敵ではなく味方であることを表す“笑顔”であることの体感を通じて、グローバル人財を育てます。

従業員満足度の 向上をめざして

キャリア調査・
活き活きプロジェクト

社員一人ひとりに
やりがいのある仕事を

「社員が活き活きと働く企業風土をつくる」ために、2013年に「活き活きプロジェクト」を立ち上げ、社員の意識調査を開始しました。また、2008年から続けているキャリア調査では、将来どんな仕事がしたいか、どんな部署で働きたいかなどの申告をして、自身のキャリアを考える機会にするとともに、社員がやりがいを持って働くことができるよう配慮しています。



活き活きとした働き方を探るワークショップ

Voice

自分の人生とキャリアを責任持って組み立てる それが幸せな働き方だと思います

人財育成においても、ダイバーシティの視点は大切です。参加公募型の「プレ・マネジメント研修」や「女性リーダー研修」では、自分の人生とキャリアを自らの責任で組み立てながら働く方法を探ります。かんたんではありませんが、きっと誰もが幸せな働き方を見つけられると私は思いま

す。既存概念から解放されて、「管理職もできるかもしれない」と考える女性社員も出てきています。

世界をフィールドに、活き活きと、そして幸せに働く個々の力が合わさり、森永乳業の次の100年を支えるエネルギーになればと思います。



コーポレート本部 人財部人財開発グループ
アシスタントマネージャー
浦川 香奈子



重要取組課題

コーポレート・ガバナンス

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて
実効性の高いガバナンス体制の整備
および充実に継続的に取り組めます。

コーポレート・ガバナンスの 基本的な考え方

森永乳業グループは、コーポレートミッション（→P4）に基づく事業活動を通じて社会に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、次の基本的な考え方に沿って実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の整備および充実に取り組んでいます。

1. 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
2. 株主、お客さま、取引先、地域社会、従業員等、様々なステークホルダーの立場や権利等を尊重し、適切な関係の構築を図る。
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. コーポレート・ガバナンス体制を構成する各機関が有機的に連携する仕組みを構築するとともに、取締役会の業務執行に対する監督機能の実効性を確保する。
5. 持続的な成長と企業価値の向上を目指し、その実現と中長期的な利益の実現を期待する株主との間で、建設的な対話を行う。

内部統制システムに関する 基本的な考え方

森永乳業グループは、企業活動の安全と効率とを求めて内部統制を推進し、コンプライアンス・リスク管理・財務報告・情報セキュリティの信頼性確保のために統制基準を定め、これに基づいて業務を執行しています。また、それぞれの担当部署が相互に協議しながら情報の共有をはかり、指示・要請の伝達などが効率的に行われるよう、グループ全体の内部統制の構築に取り組んでいます。また、監査役による監査の実効性を確保するため、監査を支える体制の整備にも努めています。

コーポレート・ガバナンスの重要性

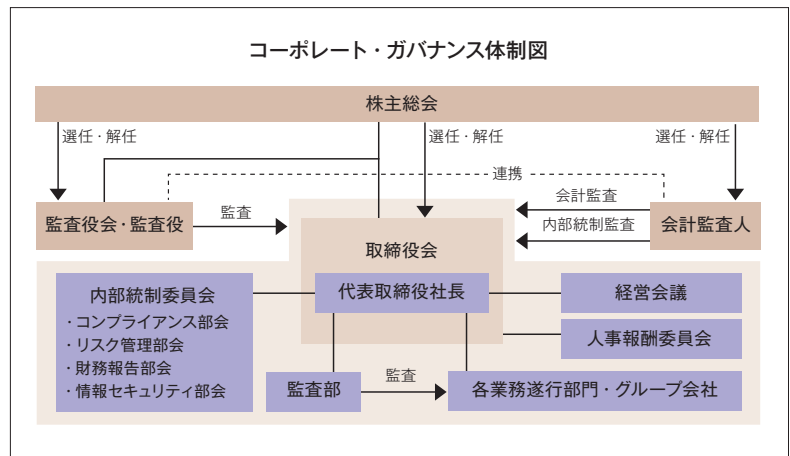
企業として、持続的な成長と企業価値の向上を実現するためには、株主やお客さま、サプライヤーなど様々なステークホルダーの立場を踏まえ、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うことが重要だと、森永乳業は考えています。

その基本的な枠組みや考え方を、「森永乳業グループコーポレートガバナンス・ガイドライン」としてまとめました。すべてのステークホルダーのみならずとも共有し、取り組んでいきます。

サプライヤーとの公正な取引

サプライヤーとの取引にあたっては「森永乳業グループ調達方針」に基づき、すべての取引先に公平、公正、透明な取引の機会を提供し、その取引を実践します。また、法令、社会規範を遵守し、人権や環境、労働安全衛生などに配慮した公正な取引に努めています。

原材料の品質、安全、技術力、価格、納期などの領域においては取引先と協働し、信頼関係を築きながらお客さまに喜んでいただける商品・サービスの提供をめざしています。



ステークホルダーとの対話・ 積極的な情報開示

森永乳業グループは、株主、お客さま、取引先、地域社会、社員等のステークホルダーからの信頼を維持し、向上するために誠実なコミュニケーションに努めます。

法令ならびに東京証券取引所が定める規則に従って、正確で公平かつ明瞭な情報開示をWEBサイトなどで継続的に行なっていきます。

また、ステークホルダー・エンゲージメントを積極的に行い、ステークホルダーとの対話を通じてESGの観点での様々な課題や要請を抽出し、企業活動に反映していくことをめざします。

第三者意見



株式会社日本総合研究所
理事

足達 英一郎氏

同社において企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価の業務を統括。2005年3月～2009年5月には、ISO26000作業部会日本エキスパートとして「組織の社会的責任に関する国際規格 ISO26000」の策定に携わる。主な共著書に、「投資家と企業のためのESG読本」(2016年、日経BP社)、「ビジネスパーソンのためのSDGsの教科書」(2018年、日経BP社)など。

森永乳業グループのCSRの取り組みとその情報開示に関して、「サステナビリティレポート2018」の記述を踏まえて、第三者意見を提出します。

本書冒頭に「新しい100年を描きはじめました」とのメッセージが掲げられていますが、これまでと同じような価値観で生活者や企業が行動していくなら、これからの100年は必ずしも豊かな社会を展望できないという警鐘を耳にすることも増えています。こうした危機感が、サステナビリティの実現をめざすという、内外の様々な機運につながっていると考えられます。

御社は2018年、多様な部署から多数の社員が参加する議論のプロセスを経て、今取り組むべき7つの重要取組課題を策定されました。本書では、これら課題別に章立てを構成されており、読みやすさを感じました。これら重要取組課題への対応如何で、将来の企業価値すら左右されるという認識を社内でより共有いただくために、次のことを提案申し上げます。

第一は、「ESG」、「CSR」、「サステナビリティ」という用語

の関係整理です。「環境、社会、企業統治の側面で配慮や取組を強化することで」、「企業の社会に対する責任を果たし」、「社会と地球の持続可能性実現に貢献する」と手段、目的、効果のように統合して説明力を高めることも一考でしょう。

第二は、「供給」をめぐる個別項目の深耕です。「原材料を安定調達する」では、国内酪農業の振興と経済合理的な原料調達という企業行動が必ずしも両立しない側面が存在します。乳業メーカーとしての今後の基本姿勢と講じようとする施策を是非、知りたいと考えます。また、「安全・高品質な商品を提供する」「BCP対策の整備」は、「最も重要な項目」とされていることから、より説得力ある開示を期待いたします。

第三は、「人権」をめぐる対象範囲の拡大です。食品安全にかかわる問題は、消費者の健康被害を通じて、人権侵害に及ぶ可能性があるという認識が必要です。調達や労働安全衛生の範囲ばかりでなく、消費者を見据えたデューデリジェンスの枠組みを一層確立いただきたいと考えます。

最後に、「環境」をめぐる事態の深刻化への対応です。とりわけ気候変動は、サプライチェーン全体を俯瞰するなら、生乳調達や乳製品の品質管理に関して大きな脅威となりえます。これを一概に回避しようとするれば、さらにエネルギー消費を増大させる悪循環を生みかねません。少なくとも、事業活動のCO₂原単位が改善の方向にあることを示すとともに、気候変動への適応策の開示を強化いただきたいと思います。

「新しい100年でも変えないこと」と「新しい100年だから変えること」の対比を強く意識いただき、次号でのさらなる進捗報告を期待しております。

第三者意見を受けて



コミュニケーション本部
CSR推進部長
山口 清之

次の100年へ向けて重要課題を整理しました

昨今、企業のサプライチェーンにおける人権・環境の課題を特定し、対応を求める声、そしてそれに基づくESG情報の開示が求められています。当社は「国連グローバル・コンパクト」に署名し、持続可能な社会の形成を全社をあげて行っていく意思を示しました。

その一環として、今回のレポートでは、当社の重要取組課題をお示ししております。今一度自分達の活動を棚卸し、重要取組課題を深化させていくことが必要だと考え、関係者で討議し整理したものです。

加えて、有識者の方からいただきました貴重なご意見を踏まえて、当社にとっての機会、リスクにつ

いて、ステークホルダーエンゲージメントなどを通じて様々なステークホルダーの方々のご意見に耳を傾け取り組んでいきます。特に人権に関しては、人権方針の2018年度中の策定ならびにサプライチェーン上の人権リスクの抽出を急ぎます。

報告書本文にも示した通り、重要取組課題を設定して終わりではなく、重要取組課題のKPIを策定し、PDCAを回していく、そのためにより一層の情報開示と対話を行いたいと思います。

今後も、ESGを包含したCSRの取り組みを深化させ、持続的成長に向けた価値創造に向けてチャレンジを続けてまいります。



経済人コー円卓会議日本委員会
専務理事兼事務局長

石田 寛氏

日本興業銀行での勤務後、2000年より経済人コー円卓会議日本委員会に参画。経済人コー円卓会議とは、CSRの浸透と普及をめざすビジネスリーダーの世界的ネットワークである。2015年より、英国ケンブリッジ大学「ビジネスと人権ジャーナル」のDevelopments in the Field Panel。

CSRの取り組み強化を決定した2016年以来、CSR専門部署の創設、CSR委員会の運営開始、「ビジネスと人権」への取り組み、国連GC署名と、この3年間、森永乳業のCSRの取り組みは着実に進展しています。新たな100年のスタートにあたり、SDGs（国連持続可能な開発目標）を見据えて、地球規模の優先課題や世界のあるべき姿を描きながら、自らの事業経営を進めようとする森永乳業の姿勢を高く評価します。

● SDGsにどう向き合うべきか

企業にとって、特に重要になるのは、想定されるバリューチェーン全体を通じて、SDGsに取り組み際の現在および将来において、社会に正（+）と負（-）の影響を及ぼしていないか分析・評価して、優先的に取り組む課題を、第三者を交えて特定していくことです。その際は、地域コミュニティやNGO/NPO、他企業・業界などとの協働が有効です。そして、ステークホルダーや投資家からの信頼を得るためにそのプロセスを積極的に情報開示することが、企業価値を高めていくこととなります。

● SDGsにおける「ビジネスと人権」をどう見るか

2011年に国連人権理事会で「ビジネスと人権に関する指導原則」(UNGPs) が承認されて以降、企業に対してサプライチェーン管理の実施と開示を求める法制度が加速化するな

ど、「ビジネスと人権」に関する取り組みに対し、世界中で関心が高まっています。SDGsの前文では、「すべての人々の人権を実現すること、誰ひとり取り残さないこと」が明記されています。企業がSDGsの取り組みを実践する際には、UNGPsを基軸に置き、企業活動による人権への負の影響を特定し、防止・軽減、そして対処していく「人権デューデリジェンス」を着実に実行することが求められています。

● 「人権デューデリジェンス」を推進する上での留意点

企業活動が関連する人権課題には様々なものが存在し、潜在的な人権侵害がどこに存在しているのかを正確に把握することは困難です。自社単独で対応しようとすると、独り善がりとなりがちです。そこで、ステークホルダーとのダイアログ（対話）や第三者機関との連携が重要になります。これにより深刻な負の影響を及ぼす人権課題を特定し、それに対処するために具体的な行動に移すことによって、社会やステークホルダーに対する誠実性が担保可能となります。

● 今後の「ビジネスと人権の課題」をどう見るか

ESG投資が注目を集める中で、今後は機関投資家などが企業を非財務情報で評価する姿勢が顕著になっていくため、その要請にも企業は積極的に対応していかなければなりません。そのためには、取り組みが完了してからではなく、途中経過を開示していくなど、ステークホルダーと対話しながら進めていく姿勢により、誠実性や正当性の担保を得ることができます。こうした人権リスクの低減をめざした取り組みは、結果として企業の成長の妨げを事前に予防し、多くのステークホルダーを魅了し、企業価値を向上させることを強調したいと思います。

以上のような動きを捉えてCSRを推進することは、グローバル企業として、これからの100年をスタートする森永乳業の基盤となり、「かがやく笑顔」を増やす着実な取り組みとなると信じます。

編集後記

今年は森永乳業のCSRにとって、また新しい一歩を踏み出した年となりました。

その中でも、部門横断で30名以上の管理職が参加したワークショップで当社の重要取組課題策定を行ったことは大きな一歩です。参加者が今後の森永乳業の土台となる重要取組課題をつくる過程では、熱い想いを垣間見ることができました。これから各課題のKPIを策定していきますが、この情熱の火を絶やさないように、CSR部門として部門間をつなぐ役割を担っていきます。

また、あらためて森永乳業を俯瞰すると、様々な活動のいずれも森永乳業の企業理念「かがやく笑顔」のために」に向かっているのだと感ずることができました。

CSRを取り巻く環境は速いスピードで変化しています。当社も社内の体制をしっかりと整え、様々なステークホルダーとの対話を通じて、100年続いた企業として持続的な社会の形成に引き続き貢献してまいります。

森永乳業 サステナビリティレポート2018の概要

編集方針

森永乳業では当社の環境活動をわかりやすくお伝えする「環境報告書」の発行を2000年に開始し、2008年からは「CSR報告書」として、CSR活動を開示してきました。2017年より、持続可能な社会の実現に向けて「サステナビリティレポート」として発行しています。

多くのステークホルダーのみなさまに当社の考え方と取り組みを知っていただくために、情報発信においてWEBサイトの活用などの環境整備を進めています。

当社の想いや姿勢をご理解いただくために、成果だけでなく、取り組みの過程も報告の対象としています。また、編集にあたっては正確・誠実な情報開示に努めるとともに、当社の姿をわかりやすく表現することを心がけました。

本報告にあたっての基本的要件

- 対象範囲：森永乳業（株）グループを対象としています。ただし対象企業のすべての情報を網羅しているわけではありません。
- 対象期間：2017年4月から2018年3月まで（一部、2018年度の活動も報告しています）
- 対象分野：事業概要、社会、環境、ガバナンス
- 発行日：2018年10月
- 次回発行予定：2019年9月
- 作成部署および連絡先：森永乳業（株）CSR推進部
〒108-8384 東京都港区芝 5-33-1
TEL 03-3798-0129 FAX 03-5442-3691
- WEBサイト
<http://www.morinagamilk.co.jp/csr/>
(2018年12月上旬更新予定)

森永乳業 CSR

検索

森永乳業は、ステークホルダーのみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。本レポートをお読みいただき、お感じになったことがございましたら、ぜひみなさまのお声をお寄せください。

会社概要

会社名	森永乳業株式会社 (MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.)
本社所在地	〒108-8384 東京都港区芝5-33-1
代表者	代表取締役社長 宮原 道夫 代表取締役副社長 野口 純一
創業	1917年(大正6年)9月1日
設立	1949年(昭和24年)4月13日
資本金	21,704百万円(2018年3月31日現在)
従業員数	3,144名【男子2,556名、女子588名】 (2018年3月31日現在)
事業内容	牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、 その他の食品などの製造・販売 他
事業所	直系工場13、支社支店3(2018年6月30日現在)

かがやく“笑顔”のために

森永乳業株式会社



この冊子は環境に配慮した紙やインキによって印刷されています。